# 生津城遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 28 年（2016 年）11 月 6 日（日）／公益財団法人滋賀県文化財保護協会

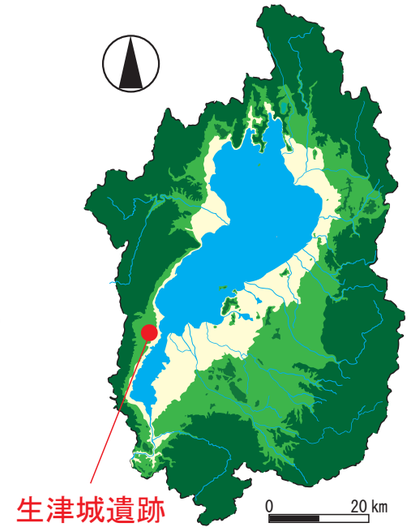
私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

## 調査の概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県大津土木事務所および滋賀県教育委員会の依頼により、伊香立浜大津線補助道路整備工事に伴う、大津市伊香立生津町（なまづじょう）に所在する生津城遺跡の発掘調査を平成 28 年 7 月から実施しています。

生津城遺跡は、「城山（しろやま）」と呼ばれる段丘先端部に立地し、現況で堀切や土塁などの遺構が残っています。江戸時代に書かれた地誌の『近江輿地志略（おうみよちしりゃく）』には、城主として、「林宗林坊（はやしそうりんぼう）」と記載されますが、生津城の詳細については明らかではありませんでした。今回、城跡の北部が工事箇所に含まれることから発掘調査を行ったところ、戦国時代の土器などとともに、礎石建物や石垣のある櫓台、堀切、土塁などがみつかりました。



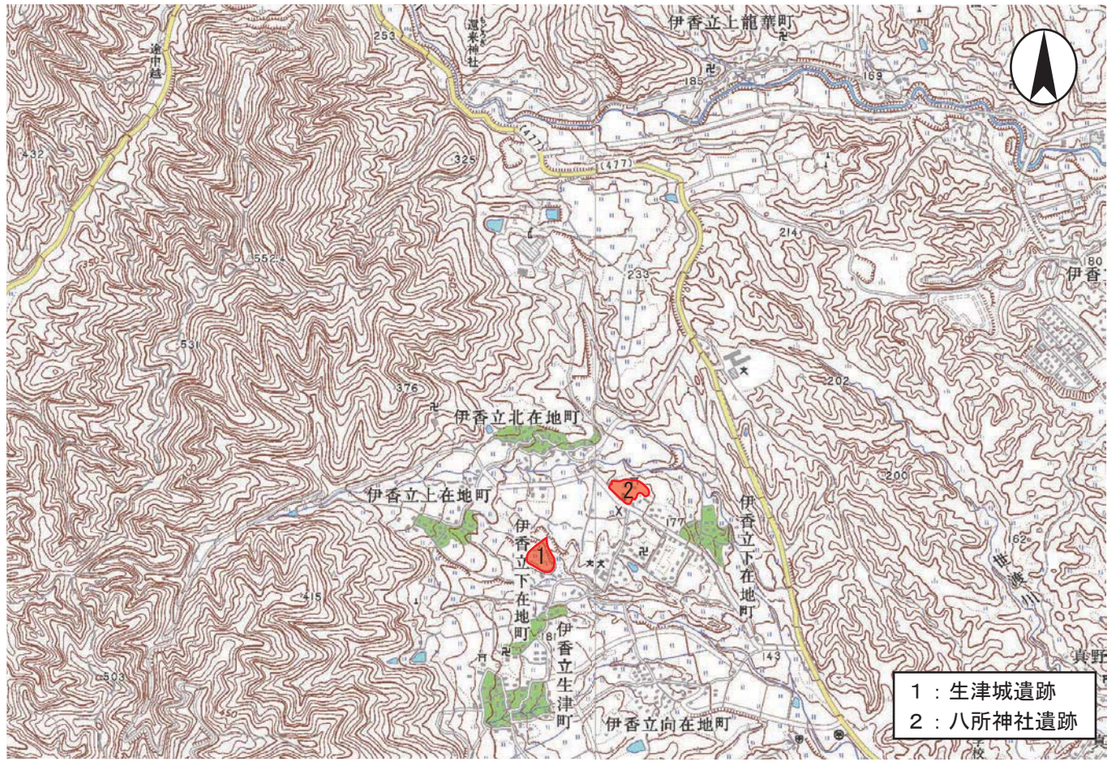




図１　生津城遺跡の位置と周辺の遺跡（S＝1/25,000）

## ま と め

今回の調査により、出土した土器などから生津城遺跡は戦国時代（16 世紀中頃）の山城であることが明らかとなりました。３方向を谷に囲まれた自然地形を利用するかたちで選地・築城し、倉庫と考えられる礎石建物や、「伊香立越え」の道を監視したと考えられる櫓台、尾根筋を分断した大規模な堀切、曲輪を囲む土塁といった本格的な城郭施設を備えています。特に、櫓台に用いられた石垣の構築技法は、高い技術力を示すものといえます。

一方で、伊屋ヶ谷を挟んだ東側の段丘には「弾正（だんじょう）（武家が名乗る役職名でもある）」の地名が残り、現在の伊香立小学校付近の台地上に城主の居館が存在したと推測されます。

城主とされる林宗林坊ですが、中世の伊香立は比叡山延暦寺の荘園であることや、法名を冠することなどから寺社勢力と関係を結び、堅田から途中越え・伊香立越えを経て京都へ至る間道を押さえた在地の土豪としての姿が浮かび上がってきます。

今回の生津城遺跡の発掘調査により、伊香立地域における中世城郭の一端が明らかとなってきました。

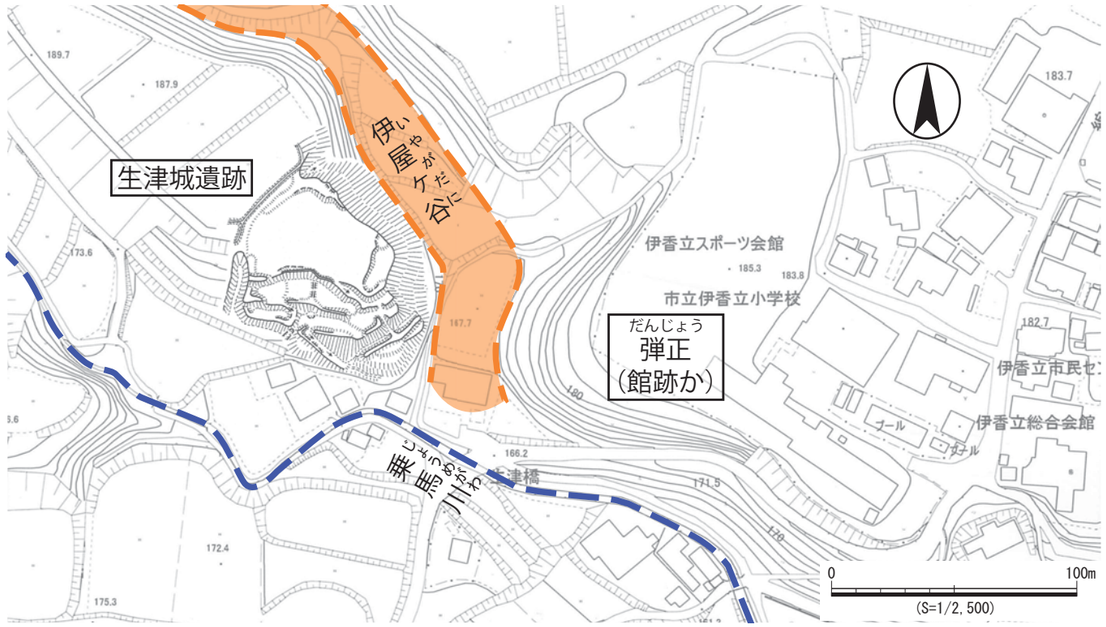



図３　生津城周辺地形図

《用語解説》

- **曲輪**：お城の中の削平地のことをいいます。山の斜面を切り盛りすることで平らな面をつくり、その周囲に土塁を築くなど侵入しにくく加工した平場のことをいいます。
- **堀切**：登りやすい尾根づたいを遮断する目的で、尾根の鞍部を掘り切った空堀のことです。
- **土塁**：土を盛って固めた土手のことです。曲輪や堀をつくるために削った土を盛り上げる場合が多いですが、生津城では下部は地山（じやま）（人が手を加えていない地盤）を削り出すことで土塁を構築しています。
- **切岸**：曲輪のまわりに侵入者が容易に登ってこれないように人工的につくられた急斜面のことです。生津城では自然地形を利用して切岸としています。
- **虎口**：防御されたお城の出入口のことです。侵入者の直進を防ぐために屈曲させるなどの工夫がみられます。

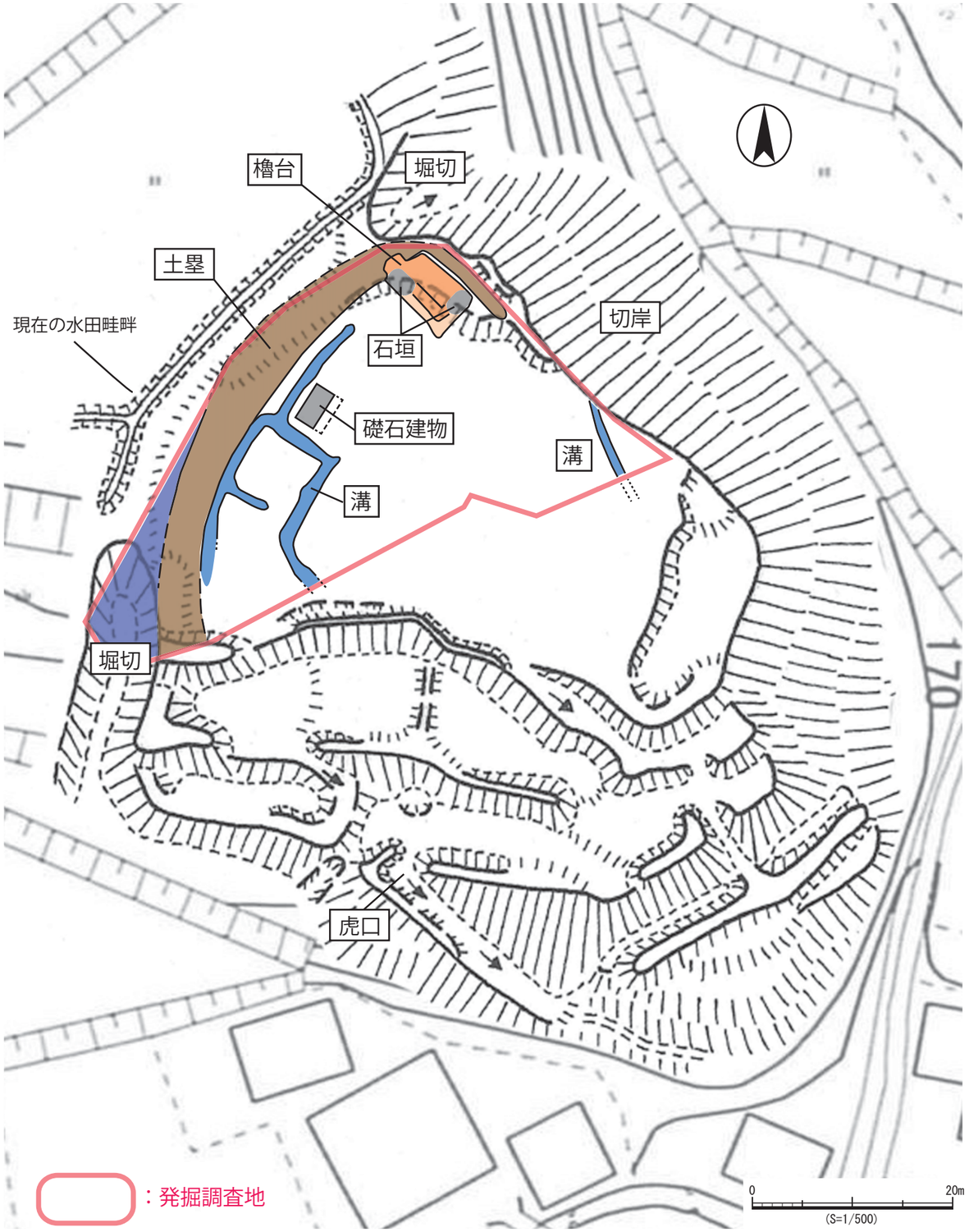



図２　生津城縄張り図（略測図）・遺構配置図

## 調査の成果

### 【礎石建物（そせきたてもの）】

調査区中央部の土塁沿いで検出した総柱の礎石建物です。規模は２ｍ×４ｍにわたって礎石が残り、土塁側の礎石の間には、径 10cm 前後の石材を石塁状に並べています。一部に礎石が失われていますが、東側に礎石を据えた痕跡が認められることから、さらに東側に建物が延びていた可能性があります。

また、建物の周囲には、排水および区画用と考えられる溝が巡ります。重さに強い建物構造であるため、蔵か倉庫としての役割が推測されます。

礎石建物（南東から）

### 【櫓台（やぐらだい）・土塁（どるい）】

櫓台は曲輪（くるわ）の北隅で検出し、調査前にも高まりが残っていました。２辺を土塁によって囲まれ、その内側に小規模な平坦面があることから櫓台と想定されます。斜面部の２か所に石垣が残り、裾部は櫓台を区画した溝（石材の据え付け溝か）が巡ります。生津城遺跡の北方には、京都大原へと抜ける旧道「伊香立越え」があり、それを監視していたと推測されます。

土塁は開墾によって上部が削られていますが、本来は堀切とセットになることで高低差を増していたと考えられます。また、内側には排水用とみられる溝が延びています。

櫓台（南から）

### 【堀切（ほりきり）】

曲輪の南西部と北東部に、現況で堀切の痕跡が確認できます。この２か所の堀切は当初はつながっていたとみられ、尾根筋を堀によって分断していたと考えられます。戦時中の開墾によって埋め戻されたようです。

南西側の堀切（北から）

### 【切岸（きりぎし）】

曲輪の北から東側にかけて地形がほぼ垂直の崖となっています。落差は 20m近くあり、自然地形を利用して谷部からの侵入を防いでいたと考えられます。

### 【調査区外の城郭遺構】

生津城の前面にあたる南側は、段々畑状に小規模な曲輪が多く残っています。曲輪の縁には土塁の痕跡とみられる高まりや、各曲輪と接続する通路が確認できます。城郭の入口とみられ、そこに「折れ」をつくることで侵入者の直進を防ぐ虎口（こぐち）といった城郭遺構も残っています。